



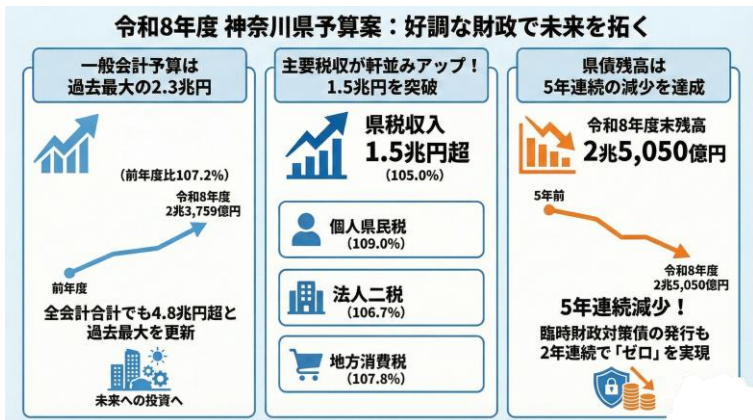
やるき ほんき 木佐木

神奈川県議会議員
日本共産党

2026.2.18
木佐木ただまさ news
発行：党横浜北東地区委員会
横浜市鶴見区潮田 3-147-6
TEL：045-511-1021

Profile
▶1984年(41歳)山口県出身
▶鶴見区馬場在住
▶神奈川大学法学部卒
▶よこはま健康友の会会長
▶横浜東民商顧問

物価高で税込増。だからこそ、暮らしに還元を！



2月9日、黒岩知事が発表した「2026年度当初予算案」は、全会計で4兆8,747億円と過去最大の規模となりました。私たち日本共産党県議団は、この巨額予算が「誰のために使われるのか」を厳しくチェックし、みなさんの暮らしを守るために全力を尽くします。

なぜ税込が増えたのか？

今回の予算案の最大の特徴は、県税収入が1兆5,254億円(前年度比105.0%)へと大幅に増加したことです。しかし、その中身には大きな問題があります。

①「物価高」が税込を押し上げている 税込の柱である「地方消費税」は、みなさんを苦しめている 物価高騰の影響で増収となり、5,030億円を見込んでいます。これは県税収入全体の約33%を占める最大の財源です。

② 格差を広げる「消費税頼み」の仕組み 所得の低い方ほど負担が重くなる消費税が、県の最大の収入源になっている現状は問題です。「物価高で苦しむ県民から集めた税金は、県民の暮らし応援に使う」こ

れこそが、今求められている政治の姿勢ではないでしょうか。

運動と論戦で実現した前進も

粘り強い運動と論戦が実り、税金の使い方が変わり始めています！

- ✓ 学校給食の無償化が本格スタート
- ✓ 県立高校・私立校体育館のエアコン設置を加速
- ✓ 高齢者の補聴器購入費補助(市町村への支援)
- ✓ 中小企業への賃上げ支援

転換すべき税金の使い道

税込が増えている今、不要不急の大型開発に巨額の税金を流している場合ではありません。

✗ 見直すべき大型開発

- ・ リニア中央新幹線の整備促進
- ・ 村岡新駅・ツインシティ計画
- ・ 赤字懸念の2027年国際園芸博覧会

👉 たとえば！予算をこっちに

- 教員不足の解消(正規教員を増やす)
- 医療体制の拡充(医師・看護師・病床の確保)
- 消費税の減税(国への働きかけ含め)

増えた税込は、「暮らし」へ！

物価高で税込が増えたのなら、それを原資に、苦しんでいる県民の生活を支えるのが自治体の役割です。2月12日から始まった予算議会。「税金の集め方・使い方」を根本から問い直し、みなさんの願いが真っ直ぐ届く県政へ、全力で論戦に挑みます！

YOUTUBEでも動画で紹介しています⇒

